



医師（勤務医・開業医）の 生涯年収の平均は？ 本当にもうかる仕事？

医師の年収は、「高い」と言えるのか

医師の生涯年収は、勤務医か開業医か、または担当する診療科によっても異なりますが、30年間勤務で計算すると、約3.7億～9億円だといわれています。しかし、高収入ゆえの問題や、過酷な労働環境もあり、現場の医師は割に合わない仕事だと感じていることも多いようです。

医師の生涯年収の平均は？

医師の生涯年収の平均値は、30年間勤務したとすると、約3.7億～9億円（勤務医の平均～開業医の平均）といわれています。一方、国税庁の調査によると、日本のサラリーマンの平均年収が約467万円なので、同条件で計算をすると生涯年収は約1.4億円です。そう考えると、医師の年収は一般的に高い水準であることが分かります。



科目別の平均年収

以下の表の平均年収の欄は、下限は勤務医、上限は開業医の平均年収を記載しています。年収だけを見れば、勤務医よりも開業医の方が総じて年収が高いということが分かります。また、脳神経外科や産婦人科といった診療科によっても当然ながら平均年収は異なります。

	平均年収	生涯年収（30年で計算）
脳神経外科医	約1,480万～3,000万円	約4.4億～9億円
産婦人科医	約1,466万～3,000万円	約4.4億～9億円
外科医	約1,374万～2,500万円	約4.1億～7.5億円
整形外科医	約1,289万～2,500万円	約3.9億～7.5億円
内科医	約1,247万～2,700万円	約3.7億～8.1億円
精神科医	約1,230万～1,600万円	約3.7億～5.8億円
小児科医	約1,220万～3,000万円	約3.7億～9億円



医師は職業別生涯年収ランキング第2位

医師は、職業別で比較すると、生涯年収ランキング第2位として位置付けられており、年収を見ても医師は多くの方が憧れる職業であるといえるでしょう。

ランキング	職業	生涯年収（30年で計算）
第1位	パイロット	約5.1億円
第2位	医師	約3.5億円
第3位	大学教授	約3.3億円
第4位	大学准教授	約2.6億円
第5位	記者	約2.4億円
参考	弁護士	約2.2億円
	国家公務員	約1.9億円
	薬剤師	約1.7億円



医師の生涯年収が高い理由

医師は、難関資格であるがゆえに「好待遇で安定している職業」という世間のイメージがある職業の一つです。しかし実際は、医師を取り巻く現場にいると生涯年収が高い理由がうなずけます。医師の生涯年収が高い代表的な理由は、以下の3点です。

- 需要と供給のバランスによるもの
- 医師の仕事は大きな責任が伴うため
- 24時間体制の激務であるため

需要と供給のバランス

医師は、一生のうちに、ほとんどの人がお世話になる職業です。日本の人口は高齢化が進んでおり、高齢者が増えれば増えるほど、病院にかかる機会も多くなります。実際、平成29年度厚生労働省の生涯医療費によると、一生涯の医療費のうち、約半分は70歳以降に使われるという結果となっています。このまま高齢化が進めば、医師の需要は、さらに高まっていくことが予想されます。

もちろん、若い健康な人であっても事故によるけがや病気をすることはありますので、需要が高いことは言うまでもありません。

また、医師は、病気の治療だけではなく、健康を維持するためにも重要な役割を果たす他、企業が優秀な人材を確保するため、福利厚生として産業医を導入するケースも増えています。



医師の仕事は大きな責任が伴う

医師は、人の命を預かる責任の大きな仕事です。医師の判断によって、患者の手術や投薬、治療が行われており、患者に万が一のことが起こった場合は、最終的に医師が責任を負うこととなります。常に人の命と隣り合わせで業務を行っているため、その尊い役割の見返りとして、高い報酬が設定されていると考えられます。

24時間体制の激務

医師の仕事は、勤務時間自体は決まっているものの、急患が入ることによって、勤務時間が頻繁に変わります。急患だけではなく、入院患者の容体が急変する可能性もあるなど人の命がかかっているため、すぐに対応しなければなりません。

そのため、医師は交代制の24時間体制で、医療機関にいなけりならず、慢性的な人手不足も重なり、多くの勤務医は不規則な生活を送っているというのが現状です。医師の給料が高いのは、このような激務の代償が反映しているためであるともいえます。



医師がもうからないといわれる理由は？

医師は、先述のように、職業別で見ても生涯収入が第2位にランクインするほど高収入であり多くの人が憧れる職業であると考えられるかもしれません。

しかし、高収入であるがゆえに発生する問題点や、現場で働いている人たちにとってはそれでも「割に合わない」という過酷な労働環境下であり、総合的にはもうからない仕事だと感じているようです。その理由として、以下の可能性が挙げられます。

- 支払うべき税金が高額
- 退職金がない
- 厚生年金による保障がない
- 激務の対価として割に合わない

4つ目の理由を除けば、もうからないと感じる理由の大部分が「手取りが少ない」という点に起因しています。



結局手取りはいくら？ 年収別「医師が払わなければならない税金」

医師は収入が多く、年収が上がるに連れて支払うべき社会保険料や所得税、住民税など全ての税金の負担額が増えていきます。ゆくゆくは年収の3分の1以上が税金として引かれてしまう試算結果があり、高額年収の医師の方こそ、早い段階から収入を増やすか、節税のための仕組みづくりをする必要があると言えます。

年収	手取り金額	保険料・所得税・住民税等で引かれる額
600万円	¥4,577,300 (76%)	¥1,422,700 (24%)
800万円	¥5,899,136 (74%)	¥2,100,864 (26%)
1000万円	¥7,228,772 (72%)	¥2,771,228 (28%)
1200万円	¥8,506,196 (71%)	¥3,493,804 (29%)
1400万円	¥9,647,176 (69%)	¥4,352,824 (31%)
1600万円	¥10,698,972 (67%)	¥5,301,028 (33%)
1800万円	¥11,798,104 (66%)	¥6,201,896 (34%)
2000万円	¥12,920,904 (65%)	¥7,079,096 (35%)

「手取りが足りていない」と思ったら何をすべきか

先述した通り、通常手取りを増やすためには収入を増やすか節税の仕組みづくりをするのいずれかを行います。

- ・収入を増やすには「**転職**」と「**副業**」
- ・節税の仕組みを作るには 「**iDeCo**」「**NISA**」「**不動産投資等**」

などが医師に向いている手取りの増やし方として挙げられます。

手取りを増やす手段として「転職」や「副業」を検討を

転職や副業などによって手取りを増やしたい方は、転職も一つの選択肢となります。大手の転職サイトは求人数自体は豊富にあり、多くの求人の中から選ぶことができるように感じられますが、大事なのが自身の希望年収や希望条件と合致するよう、交渉できる手腕を持つ転職エージェントを見つけることです。

可能であればファイナンシャルプランナー資格を持ち、転職による影響もきちんと加味したライフプランニングができるようなエージェントが在籍する転職支援会社の活用がお勧めです。

現時点で、転職と資産運用のライフプランニングができる会社は、日本メディカルキャリアのみとなります。効率的な転職・人生設計に活用してみたいかどうか。



＼年収を上げる・手取りを増やすご相談受付中／

無料キャリア診断



日本メディカルキャリアは、国会資格キャリアコンサルタント・ファイナンシャルプランニング技能士有資格者による「医師の方のためのキャリア診断・相談会」を実施中。

長期にわたり先生の人生に寄り添う支援を企業理念として掲げ、医師のライフパートナーとして、将来的な「転職」「副業」「節税」のご相談実績の豊富なエージェントです。ぜひお気軽にご相談くださいませ。

日本メディカルキャリア 社員一同

